

平成30年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年6月29日

上場会社名 株式会社シベール 上場取引所 東
 コード番号 2228 URL http://www.cybele.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒木誠司
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 本田政信 (TEL) 023 (689) 1131
 四半期報告書提出予定日 平成30年7月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第3四半期の業績（平成29年9月1日～平成30年5月31日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第3四半期	2,009	△12.9	△140	—	△129	—	△170	—
29年8月期第3四半期	2,307	△2.8	△100	—	△99	—	△210	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第3四半期	△118.45	—
29年8月期第3四半期	△146.20	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第3四半期	2,988	994	33.3
29年8月期	3,232	1,199	37.1

(参考) 自己資本 30年8月期第3四半期 994百万円 29年8月期 1,199百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	15.00	15.00
30年8月期	—	0.00	—	—	—
30年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成30年8月期の業績予想（平成29年9月1日～平成30年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,759	△9.9	△119	—	△107	—	△159	—	△110.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年8月期3Q	1,806,800株	29年8月期	1,806,800株
30年8月期3Q	370,047株	29年8月期	370,047株
30年8月期3Q	1,436,753株	29年8月期3Q	1,436,800株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
3. その他	7
(1) 継続企業の前提に関する重要事象等	7
(2) 生産及び販売の状況	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の月例経済報告において、5カ月連続で「緩やかに回復している」と判断が据え置かれるなどはっきりした好況感はないものの比較的好調に推移しております。当社の事業が依存する個人消費につきましても、同様に連続して「持ち直している」と判断されておりますが、食料品などの値上がり傾向、原油高を受けたガソリン価格の上昇などの不安要因も多く、消費者の行動は一方で節約しつつ、納得したものには惜しまずお金を使うといった二極分化のまだら模様になっていると考えております。

このような経営環境の下、当社は、地域社会になくてはならない存在となるべく、地元山形・宮城の果物を用いて最高の旬をお届けしようと、昨年策定した中期事業計画に基づく諸施策を実施して参りました。

しかしながら、通信販売において平成29年10月に、宅配業界の値上げに伴い送料を引上げざるを得なかったこと、長年親しまれた「麦工房」の通信販売ブランドを廃止し「シベール」の店舗ブランドへ一本化したことでお客様に混乱を招いたこと、また、店舗販売においても不採算店舗の閉鎖等を積極的に実施したこと、営業時間の短縮を実施したことなどから、全社売上高は前年同期に比べ12.9%減少し、2,009百万円となりました。損益につきましても、販売費及び一般管理費の削減に努めたものの、売上高の減少及びそれに伴う売上高原価率の上昇などから営業損失140百万円(前年同期100百万円)、経常損失129百万円(前年同期99百万円)とそれぞれ悪化しました。四半期純損益につきましては、法人税等調整額が少なかったことなどから、四半期純損失170百万円(前年同期210百万円)と幾分改善しました。

報告セグメントごとの業績の概況につきましては、以下の通りです。

(通信販売)

売上高は、前述の送料値上げが響いたことや販売促進費を費用対効果の観点から絞ったこと等から、477百万円(前年同期576百万円)と17.2%の大幅減となりました。セグメント利益又は損失(営業利益又は損失)につきましても、売上高の減少から若干悪化し、セグメント利益43百万円(前年同期44百万円)となりました。

(店舗販売)

売上高は、不採算店舗の閉鎖を積極的に進めたことや営業時間の短縮を実施したこと等から前年同期に比べ11.5%減少し、1,531百万円となりました。セグメント利益又は損失(営業利益又は損失)につきましても、売上高の減少及び原価率の上昇等から前年同期に比べ大幅に減少し、セグメント利益74百万円(前年同期120百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は2,988百万円となり、前事業年度末に比べ243百万円の減少となりました。これは、有形固定資産が減損の実施及び減価償却により102百万円減少したこと、投資その他の資産が投資有価証券の売却等により75百万円減少したこと、流動資産が現金及び預金の減少等により66百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債合計は1,994百万円となり、前事業年度末に比べ39百万円の減少となりました。これは、短期借入の実施等により、流動負債が68百万円増加した一方、長期借入金の返済が進んだこと等により、固定負債が108百万円減少したことによります。

(純資産)

純資産は994百万円となり、前事業年度末に比べ204百万円の減少となりました。これは、四半期純損失170百万円の計上、剰余金の配当21百万円の実施等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年8月期の業績予想につきましては、平成29年11月15日に公表しました内容を修正致しました。詳細につきましては、本日公表の「特別損失(減損損失)の計上及び通期業績予想並びに配当予想の修正(無配)に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位: 千円)

	前事業年度 (平成29年8月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	186,506	124,276
売掛金	69,379	50,544
たな卸資産	85,103	108,197
その他	48,835	40,367
貸倒引当金	△434	△317
流動資産合計	389,390	323,068
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,324,555	1,223,325
機械及び装置(純額)	73,357	70,373
土地	1,097,047	1,097,047
その他(純額)	135,356	137,530
有形固定資産合計	2,630,315	2,528,276
無形固定資産	10,190	9,813
投資その他の資産		
投資有価証券	54,395	—
その他	148,750	127,969
貸倒引当金	△262	△247
投資その他の資産合計	202,882	127,722
固定資産合計	2,843,389	2,665,813
資産合計	3,232,779	2,988,882
負債の部		
流動負債		
買掛金	93,363	74,117
短期借入金	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	354,759	381,359
リース債務	2,381	6,287
未払金	117,772	103,225
未払法人税等	14,615	7,027
賞与引当金	2,750	10,000
ポイント引当金	15,715	14,262
株主優待引当金	12,800	—
資産除去債務	11,350	—
その他	32,359	30,022
流動負債合計	657,868	726,303
固定負債		
長期借入金	1,313,643	1,186,373
繰延税金負債	477	—
リース債務	17,266	35,806
資産除去債務	38,918	40,031
その他	5,595	5,595
固定負債合計	1,375,899	1,267,806
負債合計	2,033,768	1,994,110

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 8 月31日)	当第 3 四半期会計期間 (平成30年 5 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	488,355	488,355
資本剰余金	554,141	554,141
利益剰余金	995,166	803,431
自己株式	△851,156	△851,156
株主資本合計	1,186,505	994,771
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,505	—
評価・換算差額等合計	12,505	—
純資産合計	1,199,011	994,771
負債純資産合計	3,232,779	2,988,882

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年9月1日 至 平成29年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年9月1日 至 平成30年5月31日)
売上高	2,307,792	2,009,335
売上原価	1,284,512	1,170,530
売上総利益	1,023,280	838,804
販売費及び一般管理費	1,123,961	979,746
営業損失(△)	△100,680	△140,941
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	351	351
受取賃貸料	8,900	11,938
貸倒引当金戻入額	21	15
雑収入	2,117	9,803
営業外収益合計	11,393	22,112
営業外費用		
支払利息	10,073	10,593
雑損失	104	311
営業外費用合計	10,177	10,904
経常損失(△)	△99,465	△129,734
特別利益		
保険解約返戻金	5	-
投資有価証券売却益	-	9,156
その他	-	850
特別利益合計	5	10,006
特別損失		
固定資産除却損	580	1,002
減損損失	49,941	50,683
投資有価証券売却損	-	119
投資有価証券評価損	1,700	-
特別損失合計	52,223	51,805
税引前四半期純損失(△)	△151,683	△171,533
法人税、住民税及び事業税	6,450	5,498
法人税等調整額	51,923	△6,848
法人税等合計	58,373	△1,350
四半期純損失(△)	△210,056	△170,183

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期累計期間(自平成28年9月1日 至 平成29年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	通信販売	店舗販売	計		
売上高					
外部顧客への売上高	576,843	1,730,949	2,307,792	—	2,307,792
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	576,843	1,730,949	2,307,792	—	2,307,792
セグメント利益又は損失(△)	44,364	120,624	164,988	△265,669	△100,680

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△265,669千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自平成29年9月1日 至 平成30年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	通信販売	店舗販売	計		
売上高					
外部顧客への売上高	477,728	1,531,606	2,009,335	—	2,009,335
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	477,728	1,531,606	2,009,335	—	2,009,335
セグメント利益又は損失(△)	43,029	74,244	117,273	△258,215	△140,941

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△258,215千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

(1) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において2期連続の営業損失を計上し、最終損益についても減損損失の計上や繰延税金資産の取崩し等もあり、前事業年度389百万円と多額の当期純損失を計上しました。また、当第3四半期累計期間においても、営業損失140百万円、四半期純損失170百万円を計上することとなりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前事業年度48百万円と少額ながら黒字を連続して確保しておりますが、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況が存在しております。

当社としましては、営業黒字に転換すべく策定した中期事業計画を確実に実施し、収益力の回復、経営基盤の強化に努めて参ります。また、資金面につきましては、安定的に調達を確保出来ていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、文中の将来に関する事項につきましては、本資料発表日現在において当社が判断したものであり、今後の様々な要因により異なったものになる可能性があります。

(2) 生産及び販売の状況

① 生産実績

当第3四半期累計期間における生産実績を品目ごとに示すと、次の通りであります。

品目	生産金額(千円)	前年同四半期比(%)
ラスク	336,411	81.6
洋生菓子及びその他焼菓子等	426,762	98.3
パン	344,640	91.9
合計	1,107,814	90.7

(注) 1 金額は、製造原価によっております。

2 「洋生菓子」と「その他焼菓子等」は管理上区分が困難であるため、一括して記載しております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 販売実績

当第3四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	品目	販売金額(千円)	前年同四半期比(%)
通信販売	ラスク	359,343	76.9
	その他焼菓子等	104,118	109.7
	洋生菓子	9,464	109.6
	パン	4,802	83.6
	計	477,728	82.8
店舗販売	ラスク	326,284	79.1
	パン	463,832	94.4
	洋生菓子	273,474	90.2
	その他焼菓子等	284,514	92.2
	料飲	183,500	85.2
	計	1,531,606	88.5
	合計	2,009,335	87.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。